
大空と籠と

RYO

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大空と籠と

【Nコード】

N6206B

【作者名】

RYO

【あらすじ】

月城アリスは恋人の朝倉純一とともに、休日にデートをしていたふと、昨日に拾った鳥のことを思い出して、自分とを対照して世界を見渡してみる。

（前書き）

昔、短編ばかり書いていた頃のもので、その頃は短くても読み読めるものを書こうとしていたので、情景描写が自分の中の最低限まで抑えています。

く大空と籠とく

空が青く澄み渡り、私は先輩の背中をゆっくりと追いかける。

広くて温かいその背中をずっと追いかけている。

時々先輩は、私と話すために隣に寄ってきて話しかけてくれる。

「いい天気だな、アリス」

そういう彼に、照れてしまって少し黙った後に「はい」と一言だけ返事をする

そんなたった一言なのに先輩は優しく微笑んでくれる。

その一瞬が何よりも好きだった。

「そういえば、あいつはどうしたんだ」

そういうと、先輩は私のほうを向いて空を指差す、そこには何羽かの鳥が

さえずりながらも自由に飛び回っているのが見えた。

昨日の夕方、私たちは雨が降り続く帰り道で小さな鳥が弱っているのを見つけた

それを、私はそっと包み込むようにして、持ち上げた。

「持って帰るのか？」

先輩は私にそういうと、私の傘を持って閉じた後に先輩の傘の中に私を招き入れる

「……はい」

私が見ただけ、その一言だけを言うと、何も追求しないで、ゆっくりと歩き出してくれる。

家に着くと、瀬場さんが手当てをしてくれた、

カラスか何かに襲われたのだろうといいながら、
そのこの羽に包帯をゆつくりと巻いていく
それを見届けた朝倉先輩は、すぐに帰って行ってしまった

私はその子に、餌をやり一生懸命に介護した

瀬場さんがいうに、もともとたいした怪我はなかったらしくすぐに回復できたのだという

そして、今朝、私のもとから飛び立っていったところだった・・・

「・・・もう、大丈夫みたいです」

そういうと、私は青い空見上げる

あのこが飛び立った自由な空を・・・

私は昔は、いろんなところを点々として決まった場所にとどまることはなかった

まさに、広大な自由な世界にいるように・・・

だけど、私はその自由が不満だった

退屈で、不安で、寂しくて・・・

そんなときに、両親が死んでしまい更なる悲しみにうちひしがれた・・・

そして、風見学園に通うことになる

そのとき、私を待っていたのは今までとは対照的な世界・・・

みんな、私のことを不気味がって近づかない

私の周りは騒がしいのに、私だけが取り残されている

まるで、狭い籠から広い世界を見るような・・・

つらくて、苦しくて、やっぱり寂しい世界・・・

そんな、世界から先輩は救ってくれた

自由でもない、誰かに決められた籠の中でもない、

そんな、とてつもなく中途半端な世界だけど
先輩は私に本当の自由を教えてくれた・・・
本当の友達を教えてくれた・・・
本当の恋人になってくれた・・・
あの頃みたいに、自由な大空を見上げるとあこがれることがある
もつと昔から、決められた学校に通いたかったと思うこともある
それでも、私は今の本当の自由が一番の幸せだと思う。

「・・・先輩」

私が広い背中にもたれかかるようにしながらさういう

「どうした、アリス」

先輩は少し、驚いた様子でさういった、

私は先輩の背中に顔をうずめて、先輩のぬくもりを目一杯感じる
私の自由を、私の幸せを感じる。

「・・・先輩、ありがとう」

いきなりこんなことを言われても、普通の人なら困ってしまうだ
ろう

先輩だって、なんのことははっきり分かっていないと思う、
それでも、先輩は優しく笑ってくれる
私の一言で私のことを理解してくれる

私はずっとここにしよう

もしそれが、また籠の中だとしても

もしそれが、何もない大空だったとしても

この人がくれたこの場所に

この人という籠にとらわれ

この人という空を飛びまわろう

それが、私の幸せだから・・・

F
i
n
s

(後書き)

なぜに、アリスなのか、それは……。いや、理由はないです。
。好きなキャラだったから……。自分の中じゃ3位と高ランク
です。えっと……。あゝ……。後書きに書くことなんてないです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6206b/>

大空と籠と

2010年10月19日03時34分発行